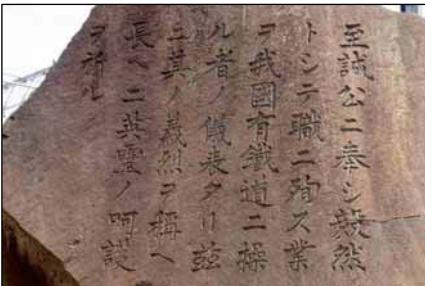


① 殉職者慰靈碑



基本情報

所 在：JR大曾根駅 南
住 所：愛知県名古屋市東区東大曾根町46-6付近
(JR大曾根駅 徒歩2分)
連絡先：都合により記載せず
建 立 者：建設委員 遺家族一同、大曾根驛員一同
建 立 年：昭和21年8月

碑 文

【表】

殉職者慰靈碑

柱秋 吉田 藤 謹書

【裏上】

至誠公ニ奉シ毅然
トシテ職ニ殉ス業
ヲ我國有鐵道ニ操
ル者ノ儀表タリ茲
ニ其ノ義烈ヲ稱ヘ
長ヘニ英靈ノ呵護
ヲ祈ル

【裏下】

昭和二十年四月七日大曾根驛ニ於ケル殉職者

(故人名)

昭和二十一年 八月建之 建設委員 遺家族一同
大曾根驛員一同

説明文

大曾根駅「殉職者慰靈碑」

この慰靈碑は、昭和20年4月
7日の空襲からお客様を救い、殉
職した当駅職員30名の靈を悼み
建立したものです。

愛知県名古屋市北区

追悼施設

② 飯田 戦災者靈位



基本情報

所 在 : 靈光院
住 所 : 愛知県名古屋市北区上飯田東町3-57
(名古屋鉄道 上飯田駅 徒歩12分)
連絡先 : 靈光院 052-981-5223
建 立 者 : 個人であり掲載せず
建 立 年 : 昭和23年3月

碑 文

【表】

飯田 戰災者靈位



【裏】

昭和二十三年三月建之

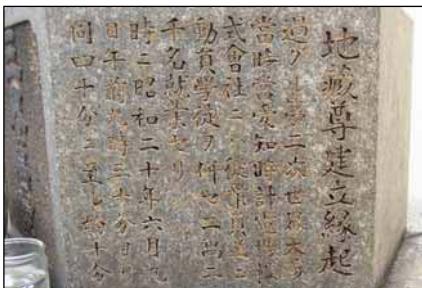
施主
(個人名)



99

98

③ 慰靈地藏尊



基本情報

所 在 : 愛知時計電機株式会社 正門前
 住 所 : 愛知県名古屋市熱田区千年1-2-70
 (市営地下鉄 神宮西駅 徒歩15分)
 連絡先 : 愛知時計電機株式会社 総務人事本部 052-661-5151 (代表)
 建立者 : 愛知時計電機株式会社
 建立年 : 昭和24年6月9日

碑 文

【正面】

三界萬靈

【台座】

地藏尊建立縁起
 過る第二次世界大戦
 當時當愛知時計電機株式會社ニハ從業員並ニ
 動員學徒ヲ併セ二萬二千名就業セリ
 時ニ昭和二十年六月九日午前九時三十分ヨリ
 同四十分三至ル約十分間ノ空襲ニヨリ忽チニ
 シテ工場一帯ハ當社關係死者一一四五名重輕
 傷者三〇〇名更ニ地方人死者一〇〇〇名ノ
 一大修羅場ト化セリ
 鳴呼惨シイカナ茲ニ
 終戦後五年船方工場再建セラルハニ當リ同志
 相謀リ隨喜ノ寫經ヲ埋藏シ地蔵尊一體ヲ建立
 シ以テ右殉國諸靈魂ノ冥福ヲ祈ラル各靈位願
 クハ此ノ功德ニヨリ佛果菩提ヲ證得セラレント
 昭和二十四年六月九日
 覚王山主
 勅賜禪師璣記

④ 物故者慰靈祭



※写真提供 愛知時計電機株式会社

開催概要 (平成24年度)

歳事名 : 物故者慰靈祭
 会場 : 愛知時計電機株式会社 本社 慰靈地蔵尊前
 (市営地下鉄 神宮西駅 徒歩15分)
 日時 : 平成24年6月9日(土) ※例年6月9日開催
 参列者数 : 約50人
 連絡先 : 愛知時計電機株式会社 総務人事本部 052-661-5151 (代表)

式次第 (平成24年度)

1. 開式の辭
2. 住職による読経
3. 役員焼香
4. 一般参列者焼香
5. 閉式の辭

式辞 (平成24年度)

なし

⑤殉職者之碑



基本情報

所 在 : 祐誓寺
 住 所 : 愛知県名古屋市熱田区千年1-18-19
 (市営地下鉄 東海通駅 徒歩16分)
 連絡先 : 都合により記載せず
 建立者 : 愛知機械工業株式会社
 建立年 : 不明

碑 文

殉職者之碑

説明文

昭和十八年愛知航空機株式會社ヲ創立シ航空機ノ製造ヲ以テ能ク太平洋戦争ノ要請ニ應シタルカ不幸戦局日ニ利アラス工場亦敵火ニ損壊シ戦ト共ニ事業頓ニ中絶セリ

戰後世局ノ艱難交疎リ社業ノ轉換又実ニ容易ナラサリシカ社員克ク戮カシ克ク辛酸ニ耐ヘ以テ社業ヲ既倒ニ回シ漸ニ今日ニ迄ヘリ

此ノ間或ハ職ニ盡瘁シテ中道ニ歿レタルモノ或ハ職場ヲ死守シテ壯烈戦火ニ玉碎シタルモノ前後殉職ノ士実ニ五百八十有余人ニ及ヘリ

嗚呼其ノ烈々タル愛社ノ誠心敢闇奮テ社難ノ打開ニ盡シタル剛健不屈ノ努力共ニ以テ後進ノ亀鑑トスヘク敬仰極マリ罔シ

茲工殉職者ノ碑ヲ建テ謹ミテ其ノ遺風ヲ宣揚シ永ク之ヲ承持シテ以テ社業ノ大成ニ資セムトス

愛知機械工業株式會社
 取締役社長 五明得一郎



愛知県 名古屋市 熱田区

追悼施設

⑥ 第二次大戦非戦闘員横死者諸靈之追善菩提



基本情報

所 在：愛知時計電機株式会社 本社 北側
住 所：愛知県名古屋市熱田区千年1-2-70付近
(市営地下鉄 神宮西駅 徒歩13分)

連絡先：不明
建立者：廣小路徳風會
建立年：昭和33年8月

碑 文

【右側面】

爲第二次大戦非戦闘員横死者諸靈之追善菩提



【裏】

昭和二十年六月九日此の白鳥橋周邊に於て米軍爆撃により無量数
百名の一般人名を失ひよつて將來の平和と安定を祈り被爆死者等の
冥福を謹みて祈願するものである

維時 昭和三十三年八月吉祥日 發願 廣小路徳風會
隨喜 一般有志者



7 慰靈之碑



基本情報

所 在：千年八幡神社
住 所：愛知県名古屋市熱田区千年2-36-26
(市営地下鉄 東海通駅 徒歩約16分)
連絡先：不明
建 立 者：戦没者爆死者 遺族一同、他団体 有志四十五名
建 立 年：昭和53年8月15日

碑 文

【表上】

慰靈之碑

熱田神宮宮司篠田康雄謹書

【裏】

爆死者氏名

(故人名)

建立関係町名

千	年	六	丁	目		
千	年	七	丁	目		
千	年	八	丁	目		
港	区	千	年	2	丁	目
南	一	番	町	中	部	
南	一	番	町	南	部	
南	一	番	町	北	部	
三	番	町	北	部		
三	番	町	南	部		
五	番	町	北	部		
五	番	町	南	部		

【表下】

碑 文

第二次世界大戦終決眞近かの
昭和二十年六月九日当千年を襲った
大空襲により罪なき住民數十名
悲惨にも爆死せらる
戦争の残酷さを憎み永遠の平和を
念願しこの人柱となられた方々の
冥福を祈りつゝこゝに碑を建つ
昭和五十三年八月十五日

⑧ 平和地蔵



基本情報

所 在 : 戦争と平和の資料館 ピースあいち
 住 所 : 愛知県名古屋市名東区よもぎ台2-820
 (市営地下鉄一社駅 徒歩15分)
 連絡先 : 戦争と平和の資料館 ピースあいち 052-602-4222
 建立者 : 遺族及び生存者
 建立年 : 昭和23年3月

碑 文

なし

説明文

平和地蔵

一九四五（昭和二〇）年三月ごろから、名古屋への空襲が激しくなり、多くの人が亡くなりました。このお地蔵さまは、戦後の一九四八年三月、名古屋市中区千代田（旧千早町）に住んでいた故山田順三さんら町内会の人たちが、空襲の犠牲者を追悼し、平和を願ってつくられたものです。お地蔵さまを守って来られた山田さんのご遺族やお寺（建昌寺）のご好意により、「ピースあいち」にお迎えしました。

⑨ 名古屋空襲犠牲者追悼のタベ



※写真提供 ピースあいち

開催概要（平成24年度）

歳事名 : 名古屋空襲犠牲者追悼のタベ
 会場 : 戦争と平和の資料館 ピースあいち 1階交流のひろばおよび平和地蔵前
 (市営地下鉄一社駅 徒歩15分)
 日時 : 平成24年3月19日（月）※例年3月中下旬開催
 参列者数 : 約60人
 連絡先 : 戦争と平和の資料館 ピースあいち 052-602-4222

式次第（平成24年度）

1. 空襲体験の語り
2. ともしび点灯
3. 追悼法要

概要

100個のともしびで供養した名古屋空襲犠牲者追悼のタベ

名古屋市街地の空襲で多くの市民が犠牲となった昭和20年3月から67年が経ちました。

戦争の記憶を伝え残していくために、今年も3月19日（月）夕刻にピースあいち平和地蔵前で犠牲者追悼の法要を行いました。

ともしびはペットボトルを利用し、ボランティアの皆さんが平和へのメッセージを書き添え手作りしました。竹筒のものもあり、100本のろうそくに火がともされ、建昌寺ご住職の読経の響くなか、50人ほどの方が平和地蔵さんの前で手を合わせました。

「ピース=平和 子供達の笑顔」
 「戦争はどんな理由があってもやってはいけない」
 「世界中の人々が幸せで平和な生活を送れますように」
 「核のない世界を子どもたちに」

メッセージにはたくさんの平和への思いが込められていました。

出典：ピースあいちブログより

10 豊橋空襲犠牲者 追悼の碑



基本情報

所 在 : 湿町公園
住 所 : 愛知県豊橋市湊町
(豊橋鉄道「市役所前」電停 徒歩14分)
連絡先 : 豊橋空襲を語りつぐ会 0532-46-1114
建 立 者 : 豊橋空襲を語りつぐ会
建 立 年 : 平成7年6月19日

碑 文

平和

豊橋市長 高橋アキラ書

説明文

豊橋空襲犠牲者 追悼の碑

この碑は、1945年（昭和20年）6月19日深夜から20日未明にかけて、アメリカのB29爆撃機136機によって亡くなつた624人の犠牲者を追悼するために、豊橋空襲50年を期して市民の募金と市の援助によつて建てられたものです。

この碑前に立たれた皆さんが、犠牲者を追悼すると同時に、戦争や空襲を語りつぎ、再び惨禍をくりかえさない平和の決意を固めていただきたいと思います。

1995年6月19日豊橋空襲50周年
豊橋空襲を語りつぐ会

11 「空襲犠牲者を追悼し平和を誓うつどい」・「灯籠流し」



※写真提供 豊橋空襲を語りつぐ会

開催概要（平成24年度）

歳事名：「豊橋空襲67周年・空襲犠牲者を追悼し平和を誓うつどい」・「灯籠流し」
会場：湊町公園
(豊橋鉄道「市役所前」電停 徒歩14分)
日 時：平成24年6月20日（水）※例年6月20日開催
参列者数：55人
連絡先：豊橋空襲を語りつぐ会 0532-46-1114

式次第（平成24年度）

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 開催あいさつ | 5. ご遺族・体験者の方より |
| 2. 黙祷 | 6. 平和の誓いアピール |
| 3. 献花 | 7. 閉会あいさつ |
| 4. 豊橋市長よりのメッセージ紹介 | 8. 灯籠流し |

平和の誓い（平成24年度）

1945年6月20日の豊橋空襲から、67年目を迎ました。
「豊橋空襲を語りつぐ会」は一九八九年四月に発足しました。昭和から平成に変わり、昭和という時代をつかひるる雰囲気の中で、そして昭和の戦争の時期が、まるで忘れ去られ、あるいは、あの戦争が正しかったかのような宣伝が強められる雰囲気の中で、私たちの会は活動を始めました。

空襲から67年、から23年、空襲体験者の数は減少の一途をたどっています。しかし、空襲体験者の「あの時の」記憶は薄れていますか？語りつぐ意欲は失われつつあるのか？否です。

豊橋市老人クラブの皆さんのが全面的な協力のもと、小学生を中心に、若者に語りつぐよと始めた「出前講座・戦争と平和を未来に語りつぐ」の講師（語り手）募集に、40人を超える方が応募してくださいました。6月3日の、「講師交流会」に20名を超える方が、ご高齢にもかかわらず、資料・手記などを持参され、自己紹介が始まるや、ほとばしるようには体験談がおされました。

先の豊橋空襲体験画募集の呼びかけの時も、多数の体験画が寄せられました。このように、最近の二つの企画から「あの悲惨な記憶は、失われていない。平和への想いはますます強くなっている。」というのが私たちの実感です。同時に、空襲や戦争を知らない世代が多数になつております、有効に語りつげないのは、憲法絶対・安保重視の政治の怠慢、そして私たちの活動の課題でもあると思います。

作家・草元勝彦さんは、「豊橋空襲体験記」の発刊に寄せて「で次のよに述べています。
「今や戦争を知らない世代が圧倒的で、ほどなくして戦争体験が『歴史』に移行する所は目に見えている。すると、これからは追体験の知性こそ、歴史認識の基礎に、きちんとすえていなければならない。それには、資料や記録が不可欠である。資料・記録なくして、歴史の継承はない。かつての戦争に民衆はどうかかわったのか、体験者はさらに書き、語り、非体験者は真摯（しんし）に学ばなくてはならない。何のために？という問いかけがあるとすれば、アメリカの哲学者サンタナーハの次の一言で足りるだろう。『過去の教訓を学ぶぬものは、ふたたび同じあやまちをくりかえす』」と。

豊橋空襲を語りつぐ会は、「空襲・戦争体験者が減少している。しかし、だからこそ、体験者の語りつぐ意欲は決して衰えていない」この状況をリアルに受けとめ、さまざまな企画を考える決意です。

2011年3月11日の東日本大震災から一年余、消費税大増税など被災者への冷たい政治、そして放射能がまき散らされ、これからも続く原発事故の心配。

今に生きる私たちが体験した自然災害と、政治の貧困からくる人災を、67年後どう語りつがれているかを想像しながら、今こそ「豊橋空襲を語りつぐ会」の活動を、大きく広げましょう。

(中略)

私たちは、遺体が集められ、傷ついた市民が苦しみの声を上げながら避難した湊町公園で集いをもち、そして市内の大火事から逃れて飛び込んだ豊川に灯ろうを流し、誰も空襲犠牲者を追悼し平和を誓うものです。

2012年6月20日
豊橋空襲67周年・空襲犠牲者を追悼し 平和を誓うつどい

12 岡崎市平和祈念式



開催概要（平成24年度）

歳事名：岡崎市平和祈念式
会場：岡崎市民会館
（JR岡崎駅、名古屋鉄道 東岡崎駅より 名鉄バス「籠田公園前」下車 徒歩5分）
日時：平成24年7月19日（木）※例年7月19日開催
参列者数：1,000人
連絡先：岡崎市福祉部 福祉総務課 援護班 0564-23-6145（直通）

式次第（平成24年度）

第一部《式典》

1. 開式の辞
2. 国歌齊唱
3. 黙とう
4. 式辭
5. 追悼の辞
6. 献花
7. 閉式の辞

式辞（平成24年度）

本日ここに、岡崎市平和祈念式を挙行いたしましたところ、戦没者ご遺族の皆様、市民の皆様並びにご来賓の皆様方におかれましては、ご多忙のなか、かくも多数のご参列を賜り、心から御礼申し上げます。

第二次世界大戦の終戦から、六十七年の歳月が過ぎ、戦争を直接知る世代が数少なくなる今日ですが、多くの方が、戦争の犠牲となり、お亡くなりになりましたことは、未来永劫忘れてはならない深い悲しみであります。

ここに、日清・日露戦争から先の大戦において、祖国の安泰を願い、家族を案じつつ、戦場に散り、あるいは戦禍に倒れられた方々、そして、終戦間近い昭和二十年七月二十日未明の岡崎空襲による犠牲者など、本市における戦没者及び戦災死者に対して、謹んで哀悼の意を表します。また、最愛の肉親亡きあと、幾多の苦難を乗り越えてこられた、ご遺族のご心労を拝察するとき、痛恨の情、切々として、万感胸に迫る思いを禁じ得ません。

一方、東日本大震災の発生から一年と五ヶ月が経とうとしております。私自身、被災地に赴き、その惨状に言葉を失ったことは、記憶に新しいところでございます。市民の皆様には、ボランティア活動など多岐にわたるご支援や二億円を超す多大なる義援金を総代会連絡協議会はじめ多くの方々のご協力によりお寄せ頂き、心より感謝を申し上げます。こうした皆様方の暖かいご支援に対しまして、本年三月には宮城県知事から、六月には福島県知事から感謝状を贈呈いただきましたことを、ここで改めてご報告させていただきます。

この震災による死者、行方不明者は一万余人を越えております。また、いまだに仮設などの避難生活を余儀なくされている人は三十二万人以上おられます。ここに、亡くなられた皆様方のご冥福をお祈りしますとともに、未だにご家族の安否が不明である方々、被災された多くの方々に対しまして、心からお見舞いを申し上げます。

さて、本市は市制施行九十六周年にあたり、先人のたゆまぬ努力により、今日では、本市の人口も三十七万八千人を超え、中核市として順調な発展を遂げております。市政の運営にあたりましても、市民導向型市政を推し進め、市民の皆様がこぞって安心して暮らせるまちづくりなど数多くの施策を着実に進めてまいりました。

まず、今年四月一日に開設いたしました「ホタル学校」でございますが、平成二十二年三月に閉校となりました緑田地区の鳥川小学校跡地を利用いたしまして、本市全体のホタル保護の取り組み拠点として整備を進め、運営を開始いたしたものでございます。

五月には市役所西庁舎南棟一階に「就労サポートセンター」を開所いたしました。ここでは、生活支援を必要とする人の生活の安定と再就職の促進を図るため、市の生活支援サービスとハローワークの職業紹介サービスを一体的に行うことにより、総合的な就労支援サービスを実施してまいります。

そして、今月六日「旧本多忠次邸」が開館いたしました。徳川家康公の四天王の一人、本多忠勝公の子孫であります本多忠次氏が昭和初期に建築した邸宅を東公園に復元整備したものの、その保存と活用を通じ、文化財の保護についての关心と理解を深めていただきたいと考えております。歴史的建造物ならではの魅力ある事業を展開してまいりますので、多くの皆様にご見学いただけたらと思う次第です。

このように、今日ある平和や安心して市民生活を送れるのも、ひとえに、戦争によって心ならずも命を落とされた方々の犠牲の上に成り立っていることを、私たちは決して忘れてはなりません。悲惨な戦争の教訓を風化せることなく、平和の尊さを次の世代に語り継ぎ、二度とこうした悲劇を繰り返さないことが、私たちに課せられた責務であります。時は移り変わりましても、過去を謙虚に振り返り、未来に向かって進んでいかなければなりません。「平和祈念式」も遺族の皆様だけでなく広く一般市民の皆様にも参加していただけるように名称を変更して二年目となり、三十八万市民の皆様とともにに戦争や災害のない平和な日本に、そして岡崎市と進むため決意を新たにさせていただくところでございます。

終わりにあたり、戦没者・戦災死者及び東日本大震災の犠牲となられた御靈の安らかならんことと、ご遺族の皆様のご健勝、ご列席の皆様のご多幸を、心よりお祈り申し上げ、式辞といたします。

平成二十四年七月十九日
岡崎市長 柴田 純一

13 岡崎空襲の慰霊碑



基本情報

所 在 : 岡崎シビコ西広場
住 所 : 愛知県岡崎市康生通西2-20-2付近
(名古屋鉄道 東岡崎駅 徒歩13分)
連絡先 : 岡崎空襲の慰霊碑をまもる会
建 立 者 : 岡崎空襲の慰霊碑をつくる会
建 立 年 : 昭和52年7月20日

碑 文

【表】

岡崎空襲の
慰霊碑

【右側面】

昭和二十年七月二十日未明
B29百三十二機来襲
その犠牲者二百三十名

昭和五十二年七月二十日
岡崎空襲の慰霊碑をつくる会

※補足 : 1977年以降48名追加され計278名

【標石】

昭和20年
7月20日
岡崎空襲の慰霊碑

14 岡崎空襲の市民慰霊祭



開催概要（平成24年度）

歳事名 : 岡崎空襲の市民慰霊祭
会場 : 岡崎シビコ西広場 岡崎空襲の慰霊碑前
(名古屋鉄道 東岡崎駅 徒歩13分)
日 時 : 平成24年7月19日(木) ※例年7月19日開催
参列者数 : 50人
連絡先 : 岡崎空襲を記録する会

式次第（平成24年度）

1. 開会のことば
2. 黙 持
3. 挨 捏 : 岡崎空襲の慰霊碑をまもる会 会長
4. 来賓のことば : 市長、教育長、市議会議員
5. 吊電披露
6. 参会者のお話 : 遺族の方、空襲体験者
7. 閉会のことばと
平和行事紹介
8. 献 花

概要

東日本大震災は多くの人に、あの戦災と変わらぬ大きな苦難をもたらしました。被災地の一日も早い立ち直りを願わずにはいられません。

さて岡崎の街が、B29の大群による空襲を受け、一夜にして街は消え失せ、幾多の死傷者を出した7月20日がまた近付いて参りました。今年は35回目の市民慰霊祭です。

37万都市として飛躍を続ける岡崎、その歴史の過程で戦禍に倒れられた多くの市民の無念を偲び、今なお絶えることのない各地の戦火に、世界の平和実現を念じつつ特別の想いを込めて、恒例の岡崎空襲の市民慰霊祭をとりおこなわさせて戴きます。

今年は岡崎松坂屋が閉店、跡地売却でその角地庭園にあつた慰霊碑を市の協力で、すぐ北東側のシビコ西の小公園に移転しました。

出典 : 慰霊祭案内状より

15 空爆殉難記念碑



基本情報

所 在 : 大乗公園
 住 所 : 愛知県一宮市桜3-14-1
 (JR尾張一宮駅、名古屋鉄道 名鉄一宮駅より 名鉄バス「松降2丁目」下車 徒歩5分)
 連絡先 : 一宮市 福祉こども部 福祉課 0586-28-9015 (直通)
 建立者 : 一宮市
 建立年 : 昭和33年7月28日

碑 文

【表】

祈

【標石・表】

空爆殉難記念碑

【裏】

こゝ空爆の被爆の中心地
 をえらび昭和二十年七月
 十二日と七月二十八日の
 二回の大空襲によつて尊
 い犠牲となられた罪なき
 市民の御靈七百余程の安
 らかなごめい福をお祈り
 し平和をまもるためにこ
 の碑を建立する

昭和三十三年七月二十八日
 一宮市長 伊藤 一

16 一宮市戦災死没者追悼式



開催概要（平成24年度）

歳事名 : 一宮市戦災死没者追悼式
 会場 : 大乗公園 空爆殉難記念碑前
 (JR尾張一宮駅、名古屋鉄道 名鉄一宮駅より 名鉄バス「松降2丁目」下車 徒歩5分)
 日時 : 平成24年7月28日(土) ※例年7月28日開催
 参列者数 : 約100人
 連絡先 : 一宮市戦災遺族会

式次第（平成24年度）

1. 開式の辞
2. 黙とう
3. 式辭
4. 追悼の言葉
5. 電報披露
6. 献花
7. 閉式の辞

式辞（平成24年度）

本日、ここに、多数の戦災死没者のご遺族の皆様、ご来賓の皆様方のご臨席のもと、一宮市戦災死没者追悼式を執り行います。

ここに鎮まりますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

先の大戦が終わりを告げてから、六十七年の月日が過ぎ去りましたが、当時の苦難の思いを、決して忘れる事はできません。

私を含め、ご遺族の皆様におかれましては、戦争により肉親を奪われ、深い悲しみに包まれ、安泰な生活が破壊されるという堪えがたい苦痛を、身をもって体験されたことと拝察いたしました。それは歳月を経た今日でも、決して癒されるものではなく、いまなお深い悲しみが込み上げてまいります。

多くの方の尊い犠牲のもと、わが国は発展を遂げてまいりましたが、まだまだ、眞の平和な世の中であるとは言えません。

私たちは、今日の発展の礎となられました戦災の犠牲者に感謝する心を決して忘れることなく、過去を謙虚に振り返り、戦争の悲惨さや、幾多の犠牲のあったことを次の世代に語り継ぎ、戦争のない平和国家の建設に更なる努力を尽くしていかなければなりません。

終わりに、先人が身を賄してお教いいただいた尊い教訓を心に銘記し、平和を願い、市民として健やかに生き、明日の日本のために、心をひとつにして努力することを戦災の犠牲者の御靈に固く誓い申し上げ、皆様の平安とご健勝を切に祈念いたしまして式辞とさせていただきます。

平成二十四年七月二十八日
 一宮市戦災遺族会会長 野田 清一

17 平和祈念事業・一宮市戦没者追悼式

追悼式



開催概要（平成24年度）

歳事名：平和祈念事業・一宮市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
会場：一宮市民会館
（JR尾張一宮駅、名古屋鉄道 名鉄一宮駅より i-バス左回り「市民会館」下車すぐ）
日時：平成24年10月6日（土）※例年10月上旬開催
参列者数：250名
連絡先：一宮市 福祉こども部 福祉課 福祉グループ 0586-28-9015（直通）

式次第（平成24年度）

《1部》～戦没者追悼式 式典～	《2部》～平和祈念事業（市民参加による）～
1. 開式のことば	1. 小中学生が考える平和作文の表彰・朗読
2. 黙とう	2. 平和祈念コンサート
3. 市長式辞	
4. 追悼のことば	
5. 来賓挨拶	
6. 電報披揚	
7. 献花式	
8. 閉式	

式辞（平成24年度）

本日ここに、戦没者ご遺族、市民の皆様並びにご来賓の多数のご参列を賜り、平和祈念事業・一宮市戦没者追悼式を挙行できますことは誠に意義深く、また感慨新たなるものがございます。

一宮市におきましては、明治以来、多くの方が戦役で亡くなられました。祖国の安泰と家族の将来を案じつつ、遠い異国の地で、または遙かなる海上で、あるいは国内で亡くなられた方々のご心情に思いを馳せ、残されたご遺族の深い悲しみを思うとき、万感胸に迫り来るものがあります。ここに、戦没者皆様のご冥福を心からお祈り申し上げます。

先の大戦が終わりを告げてから、六十七年の歳月が過ぎ去りました。ややもすれば、先の大戦での苦難や、悲惨さは、日々遠ざかり、風化しようとしています。しかし、今日の平和で豊かな繁栄は、戦没者の方々の尊い犠牲を礎として築かれたものであることを、私たちは決して忘れてはなりません。

現在も世界各地でテロや民族間の争いなど、紛争が絶えません。

私たち市民は、戦争の悲惨さと、平和の尊さを新しい世代に伝え、戦争のない世界、核兵器のない世界を実現すべく、恒久の平和に向けて努力しなければなりません。

本日、この式典にあたり、先の大戦から学びとった多くの教訓をあらためて深く心にきざみ、再び戦争の惨禍をくり返すことのないよう、安心して暮らせる、平和で豊かな社会を築き上げることが我々に課せられた責務であり、そのためには、私たちは全力を尽くすことを、ここに堅くお誓いするものであります。

終わりに臨み、戦没者の方々の安らかな眠りとご遺族の皆様、並びに市民の皆様の平安とご健勝を切に祈念申し上げまして、式辞といたします。

平成二十四年十月六日
一宮市長 谷 一夫

18 半田・戦災犠牲者追悼 平和祈念碑



基本情報

所 在：雁宿公園
住 所：愛知県半田市雁宿町3-204-1
(名古屋鉄道 知多半田駅 徒歩10分)
連絡先：半田市建設部都市計画課 0569-84-0665 (直通)
建 立 者：半田・戦災犠牲者追悼 平和祈念碑建立実行委員会
建 立 年：平成7年7月24日

碑 文

半田・戦災犠牲者追悼

平和祈念碑

説明文

【右】

平和を願って

半世紀前、太平洋戦争がありました。その戦争のため、この半田でも、子ども・老人・市民・労働者、地元をはじめ、全国各地から軍需工場に勤員されていた学徒・女子挺身隊・徴用の人びと四三二人以上の貴い生命が失われました。

とくに、当時、日本の植民地とされていた朝鮮の北部から連行された、青年四九人以上がこの中に含まれることは、まことにいたましいことです。

戦災は天災ではありません。わたしたちは、半田における戦争の惨禍の記録をここに刻み、アジア諸国をはじめとする、すべての戦災犠牲者を追悼します。そして、この事実を後世に伝え再び戦争を起こさせない決意をこめて平和を祈念するものであります。

一九九五年七月二十四日

半田・戦災犠牲者追悼
平和祈念碑建立実行委員会

【左】

半田の戦災

半田空襲

一九四五（昭和二十）年七月十五日
小型機数機が来襲、機銃掃射により、
市民八人が死亡。七月二十四午前十時
五八分、アメリカの爆撃機B-29 七八機
が中島飛行機と周辺住宅地を爆撃
従業員・市民の二六四人が死亡

【左側面】

空襲犠牲者
七月十五日の空襲 八人
(故人名)

七月二四日の空襲
武豊町 他 一八人
(故人名)
山方新田方面・本工場付近 三七人
(故人名)
新居方面 二八人
(故人名)
向山・平地方面 二三人
(故人名)
平地寮（女子学徒・挺身隊）
挺身隊 一三人
(故人名)
学徒 四一人
(故人名)
七本木池・横川池方面 五九人
(故人名)
朝鮮人徴用者（横川池付近） 四八人
(故人名)
場所不明 二四人
(故人名)
建立後の氏名判明分
(故人名)

19 豊川市平和祈念式典



※写真提供 豊川市



追悼式

開催概要（平成24年度）

歳事名：豊川市平和祈念式典
会場：豊川市文化会館
（名古屋鉄道 諏訪町駅 徒歩15分）
日時：平成24年8月7日（火）※例年8月7日開催
参列者数：800人
連絡先：豊川市企画部 秘書課 0533-89-2120（直通）

式次第（平成24年度）

1. 平和への想い：豊川市立御津中学校 合唱及び詩の朗読、平和の語りべ講演
2. 開式
3. 黙とう
4. 式辞：豊川市議会議長
5. 献花：主催者・来賓ほか
6. 平和宣言：豊川市長
7. 来賓挨拶
8. 流れ献花：一般参加者
9. 閉式

平和宣言（平成24年度）

本日、豊川市平和祈念式典を挙行するにあたり、ご来賓の皆様はじめ、ご遺族の皆様、豊川海軍工廠関係者、多くの市民の皆様のご臨席を賜りましたことを、心からお礼申し上げます。

今年も変わることなく暑い夏を迎えました。それは私達にとって忘れる事ができない日の訪れでもあります。昭和20年8月7日。この日、豊川海軍工廠は激しい爆撃により壊滅的な被害を受け、動員学徒、女子挺身隊員を含む2500名以上の尊い命が奪われ、本市は大きな悲しみに包まれました。

戦争体験の方々は、一日として忘れる事のできないつらい出来事を、67年の長きに亘り語り続けています。二度と犯してはいけない過ちとして、戦争のない平和な世界のすばらしさを強く感じ、私達はこの悲惨な体験を風化させることなく、次の世代へ引き継ぐことが責務であります。

式典に先立ち、歌と詩を披露してくださった御津中学校の皆さん、そして、本日の受付や会場案内などの業務をボランティアとして手伝ってくださった豊川高等学校、宝陵高等学校の生徒の皆さん、本当にありがとうございます。今回の式典への参加を通して、若い世代の皆さんに、平和について考えていただくきっかけとなれば幸いです。

さて、世界に目を向けますと、イギリスのロンドンでは、夏のオリンピックが開催されています。近代オリンピックのシンボルである五輪は、五色で世界五大陸を表し、重なった輪の形から平和への発展を願ったものとも言われています。スポーツを通じて、宗教や人種を超えた全世界規模で平和の輪が広がることを期待してやみません。

被爆の日にあたり、戦禍の犠牲となられた方々の御靈に心から哀悼の誠を捧げるとともに、将来を担う子どもたちの明るい未来に向けて、戦争のない世界、核兵器のない世界の実現を目指し、恒久平和に向けて積極的に努力することをお誓い申し上げます。

平成24年8月7日
豊川市長 山脇 実